平成 28 年度　看護学科　カリキュラムマップ

到達指標

1．[知識・理解]看護の基盤となる人間理解と看護実践に必要な知識を修得することができる。
（1）人間の発達や、現代社会における人々の生活と健康に関連した幅広い知識・教養を身につけることができる。
（2）看護実践に必要な保健・医療・福祉に関する専門的知識を習得することができる。
（3）生命の尊厳と人権尊重の理念、さらに看護場面における倫理的問題について理解することができる。
2．[思考・判断・表現]人々の健康問題の解決に向けて論理的に思考・判断するとともに、専門職としての責務について考えることができる。
（1）人々の健康と生活に関する問題の解決に向けて、科学的根拠に基づいて論理的に考え、判断し表現することができる。
（2）看護実践のあらゆる場面において、情報の共有と保護を思考・判断し、守秘義務を遵守することができる。
（3）講義や臨地実習を通して、チーム医療における多職種の連携と看護師の役割・責務について考えることができる。
3．[技能] 看護活動に必要な専門的技術・コミュニケーション能力・態度を身につけ、看護を実践できる。
（1）対象に応じたコミュ二ケーション技法を活用し、援助的人間関係を築くことができる。
（2）対象に応じて、根拠に基づいた適切な看護技術を選択し、実践することができる。
（3）多様な価値観を持つ対象の思いを理解・尊重し、共感できる。
4．[関心・意欲・態度]保健・医療・福祉分野の動向に関心をもち、人々の健康生活を守るとともに地域連携・貢献を推進していくために、自己の知識や技術の向上をめざして主体的かつ探求的な姿勢をもつことができる。
（1）保健・医療・福祉分野の動向や新しい情報に関心をよせ、看護職として地域貢献のあり方を考えることができる。
（2）自己の興味・関心・問題意識に関する事柄について文献・情報収集し、探求できる。
（3）講義や臨地実習を通して自覚した諸問題に対し、主体的・継続的に努力することができる。

①[知識・理解]	②[思考・判断・表現]	③[技能]	④[関心・意欲・態度]

1年次

科目	期	科目名	①	②	③	④
専門基礎	前期	解剖生理学Ⅰ	◎	○	○	○
		解剖生理学Ⅱ	◎	○	○	○
		人体と栄養	◎			○
		病理学	◎	○	○	○
		微生物学	◎	○	○	○
		生化学	◎	○		
		公衆衛生学	◎	○		○
専門		看護学概論	◎	○	◎	○
		基礎看護技術論	○	○	△	△
		生活支援技術論	○	○	○	△
専門基礎	後期	病態学Ⅰ	◎			
		病態学Ⅱ	◎			
		病態学Ⅲ	◎			
		歯科衛生概論	◎	△		○
		薬理学	◎	◎	△	○
専門		治療支援技術論	○	○	○	○
		ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ演習	◎	◎	△	△
		生活援助実習	○	○	○	○
		成人看護学概論	◎	○		○
		成人看護援助論（慢性期）	◎	◎		◎
		成人看護演習	◎	◎	○	○
		老年看護学概論	◎	○	△	○

2年次

科目	期	科目名	①	②	③	④
専門基礎	前期	リハビリテーション論	◎			
		社会福祉論	◎	○	○	○
		臨床病理学	◎	◎		
		臨床薬理学	◎	◎		
専門		看護過程演習	◎	◎	△	△
		看護過程実践実習	○	◎	○	△
		成人看護援助論（急性期）	◎	◎		○
		老年看護援助論	◎	○	○	○
		老年看護演習	◎	○	◎	○
		在宅看護概論	◎	◎	△	△
		在宅看護援助論	◎	○	△	○
		小児看護学概論	◎	○		
		母性看護学概論	◎	○	○	○
		母性看護援助論	◎	○	○	○
		精神看護学概論	◎	◎	○	○
		精神看護援助論	◎	◎	○	○
基礎	後期	看護医療安全管理学	◎	◎	○	○
		看護関係法令	◎	◎		△
専門		成人看護学実習（慢性期）	◎	◎	○	○
		老年看護学実習Ⅰ	◎	◎	○	○
		在宅看護演習	◎	○	◎	○
		小児看護援助論	◎			○
		小児看護演習	◎	○	○	○
		母性看護演習	◎	◎	◎	○
		精神看護演習	◎	◎	◎	◎

3年次

科目	期	科目名	①	②	③	④
専門	前期	成人看護学実習（急性期）	◎	◎	○	○
		在宅看護論実習	○	○	△	△
		小児看護学実習	◎	◎	◎	◎
		母性看護学実習	◎	◎	◎	◎
発展		救急看護・災害看護	◎	◎		
		終末期看護論	◎	○	○	○
		病態生理学	◎	◎		
		看護研究	◎	◎		
専門	後期	老年看護学実習Ⅱ	◎	◎	○	◎
		精神看護学実習	◎	◎	◎	◎
発展		総合看護論	◎	◎		
		看護統合実習	◎	○	◎	○